

医療センター建替え案について

市と市民が意見交換する場を設けることを求める陳情

【願意】

医療センター建替え計画を見直すにあたり、

1. 市民の要望を入れたプランを作ってください。
2. そのために市と市民が意見交換する場を設けてください。

【理由】

市はこの9月9日「船橋市立医療センター建替庁内協議会」を立ち上げ、機能と規模を見直すことにするとのことです。

しかし、船橋市のハザードマップにも載っている海老川上流地区の超軟弱地盤に建設する新医療センターの立地に関しての見直しには、全く触れていません。

このことは、市民としては何故なのだろう、と思っています。

なぜなら、海老川上流地区は、洪水、地震、水質汚染、自然破壊などのリスクが心配されている場所だからです。

能登半島地震でも災害拠点病院が被災するのを見て、この軟弱地盤に災害拠点病院でもある医療センターが移されることに大きな不安を感じています。

松戸徹市長は、船橋医療センターの移転建替えについて

- ①新医療センター入札中止
- ②建設費高騰
- ③公立病院の経営悪化

④医療の進歩や入院日数の減少、人手不足などを根拠に、「船橋市立医療センター建替基本構想」策定（平成29年3月）より、10年が経過し、この策定時とはさまざまな環境が変化したことをあげています。

市の説明では、現医療センター南側土地は、地主の方との交渉で断られたので、現地建替えは無理と結論し、海老川上流地区移転を決めたとのこと。

そこで「新しい医療センター在り方検討委員会」（平成27年3月～）の議事録を見ました。第1回に「望ましい立地条件」という項目はありますが、1、2、3回とも検討されていませんでした。第4回には、海老川上流地区の移転が市より候補地として告げられ、移転を決める際の立地に対する検討や検証は行われていませんでした。

そこで述べられているのは、この地区が「船橋市の中央に位置するので、利便性がよい」ということで、

軟弱地盤のことは何も記述がありませんでした。

しかし、土地交渉からやはり10年が経ち、地主の方の代替わりも進み、現在は「貸地」という看板も目立ち、こちらも環境が変わりました。

新医療センター用地も、今なら見直し可能ではないでしょうか。

現地建て替えならば、土地改良、杭、格子状基礎工事費も減り、1000億円以上という建設費を減らすことができるのではないのでしょうか。

市民の税金の使い方を考え直す機会にもなるのではないのでしょうか。

そして、市長が「機能と規模の見直し」をするのであれば、その時、ぜひ市民の声も入れた見直しをしてください。

①現医療センターの周りには、リハビリセンターや看護学校、保育園などが設置されています。移転建て替えすると、それぞれがバラバラとなって、かえって使い勝手が悪くなるのではないのでしょうか。

②移転建て替えの初めの案は新医療センターは駅に近く、患者が徒歩3分で行けるはずでしたが、いつの間にか、駅から800mも遠くなり、患者にとっては不便になるのではないのでしょうか。

③洪水、地震などのもしもの時に、医療センターに、外来にかかったり、入院していたら、どうなるのだろうか。車で行った時に、駐車場は安全なんだろうか、と心配が尽きません。

また、近年、私たち市民も医療の変化を肌で感じています。

◎在宅医療が進む中で、医療センターと私たち市民はどのように付き合えばいいのだろう。

◎物価高で医療費が高くなると病院に行けなくなると心配しています。そして、病院に行かなければ重症化してさらに医療費がかかるようになってしまうのではと、危惧しています。

現医療センターができる時には、何回もパブリックコメントをやって、市民の声を聞いているとのこと。

今回も、ぜひもっと市民の声を聞いてください。

市民にとって、大事な医療センターだからこそ、私たちが望む病院になってほしいと願っています。どうぞ市長および「船橋市立医療センター建替庁内協議会」に働きかけ、求めてください。